
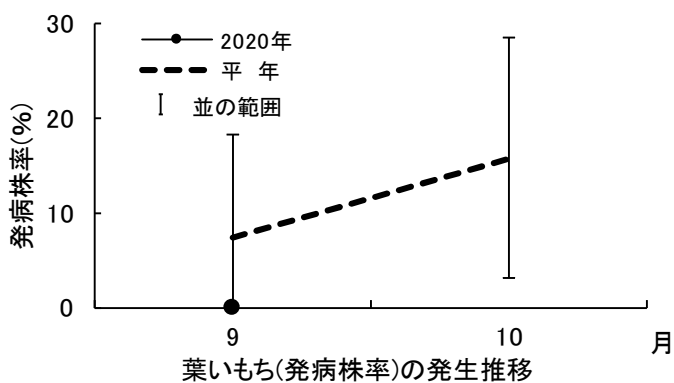


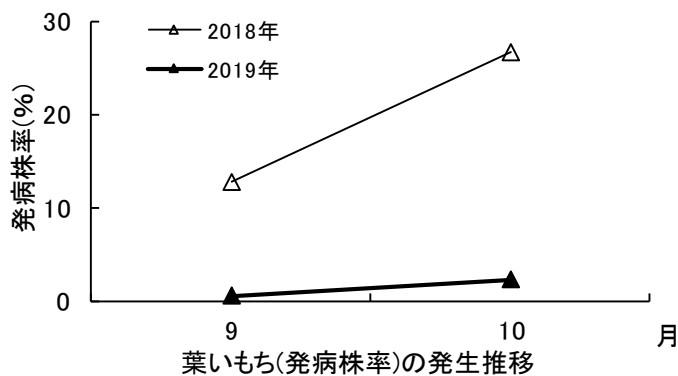
作物	水稻		地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 0% (平年値 : 28.2%)

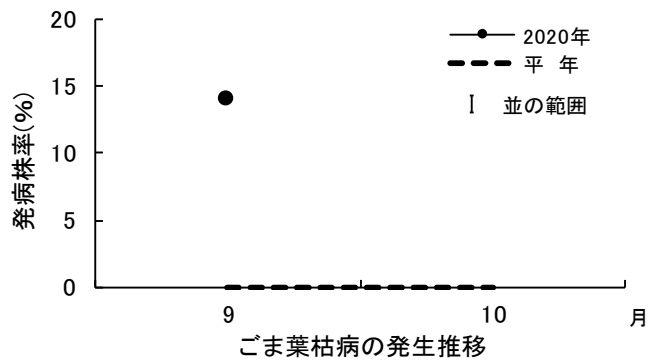
防除のポイント

- ・被害わらは次作の感染源となるため、ほ場外へ持ち出し処分する。

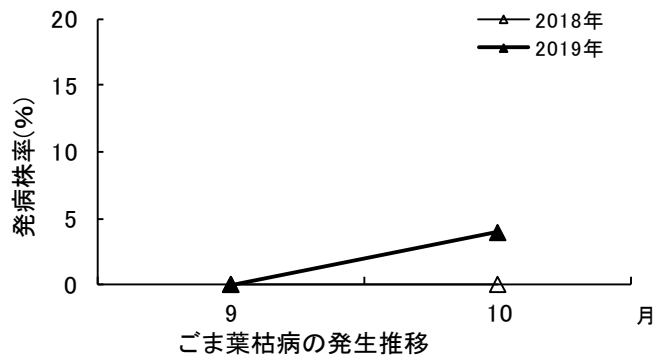
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② ごま葉枯病		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	多	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



・発生ほ場率 : 50% (平年値 : 7.3%)

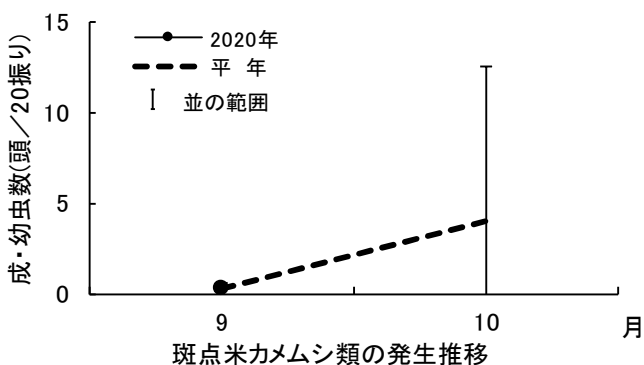
防除のポイント

- ・防除の基本は健全種子の確保と種子消毒の励行である。
- ・本田防除の基本は土壌改良と施肥改善による秋落ちの防止であるが、常発地では薬剤防除を実施する。

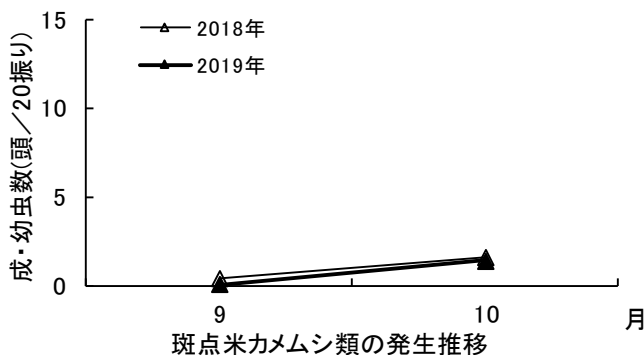
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ 斑点米カメムシ類		 <p>クモヘリカメムシ</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



- ・発生ほ場率：18.8% (平年値：16.7%)
- ・発生種：ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ

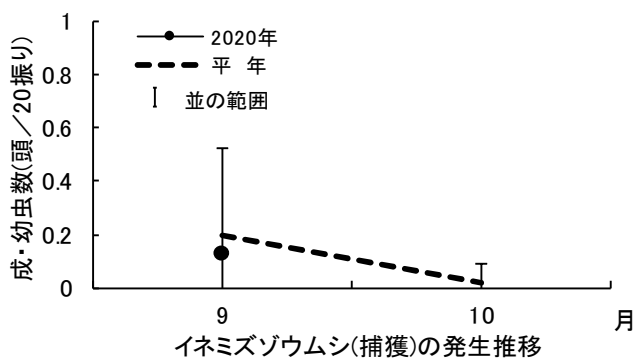
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。

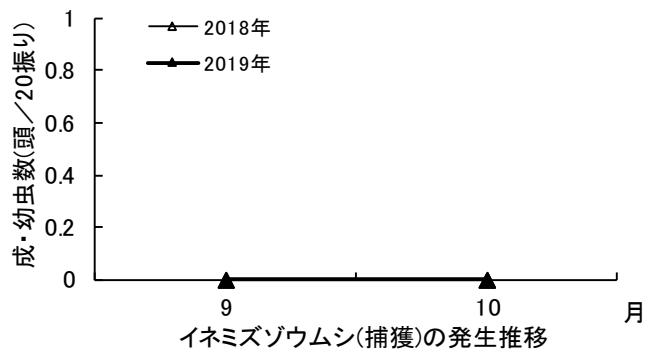
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ イネミズゾウムシ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：12.5% (平年値：11.1%)

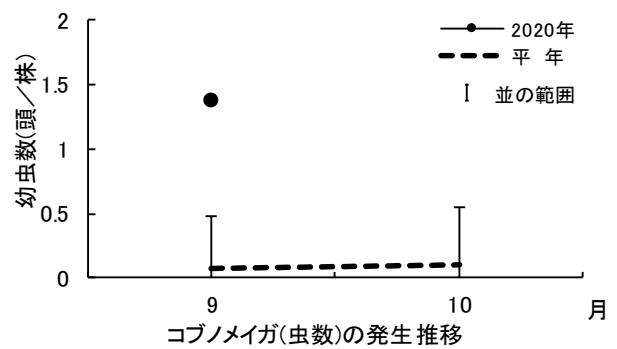
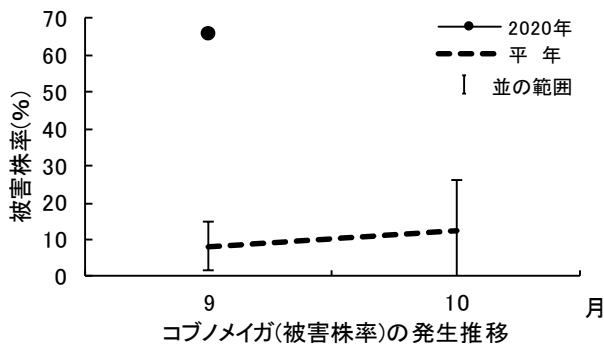
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

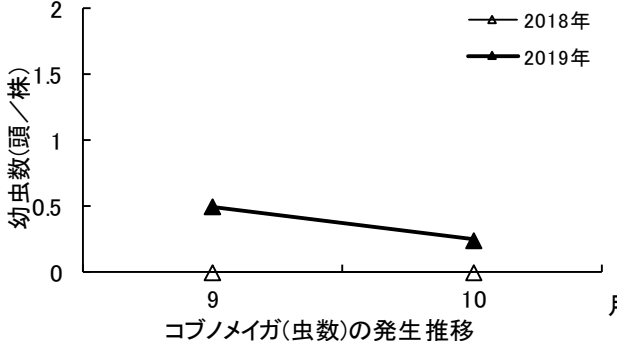
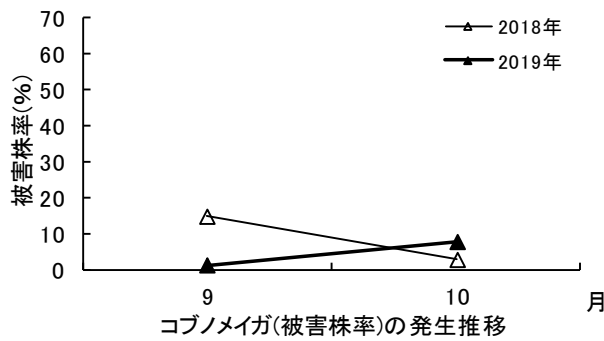
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ コブノメイガ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	多	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
		10 月の発生量 (平年比)	多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：100%（平年値：45.5%）

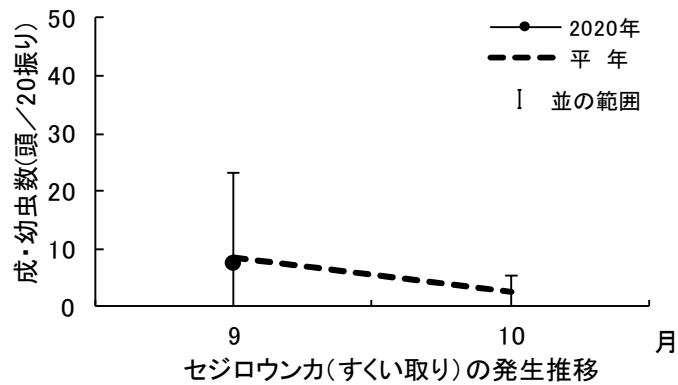
防除のポイント

・老齢幼虫は防除効果が劣るため、粒剤では成虫発生最盛期、粉剤及び液剤ではその約 1 週間後に薬剤防除を行う。

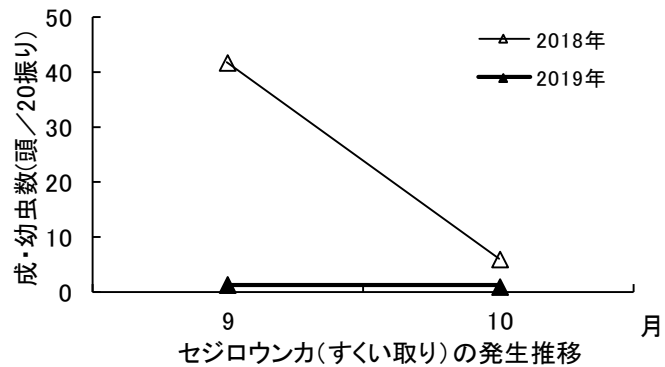
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	⑥ セジロウンカ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率 : 62.5% (平年値 : 69.4%)

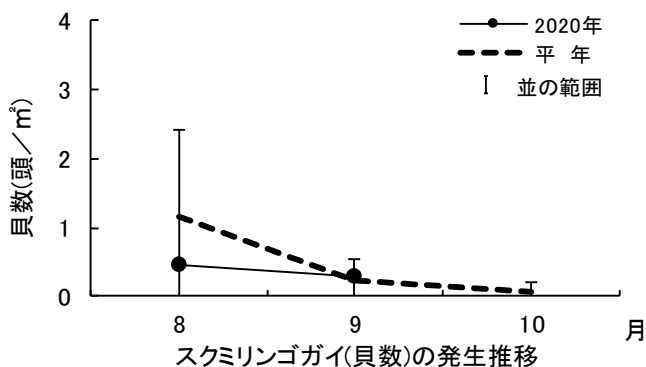
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

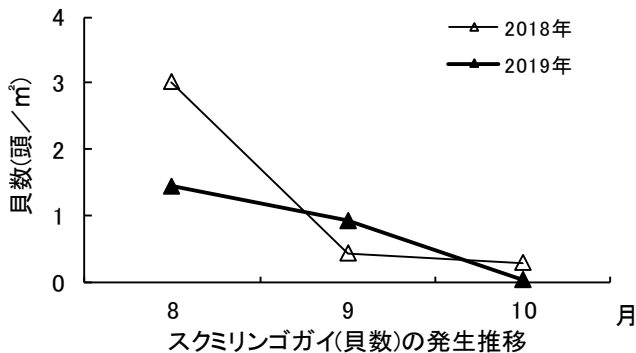
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	⑦ スクミリングガイ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 50.0% (平年値 : 30.9%)

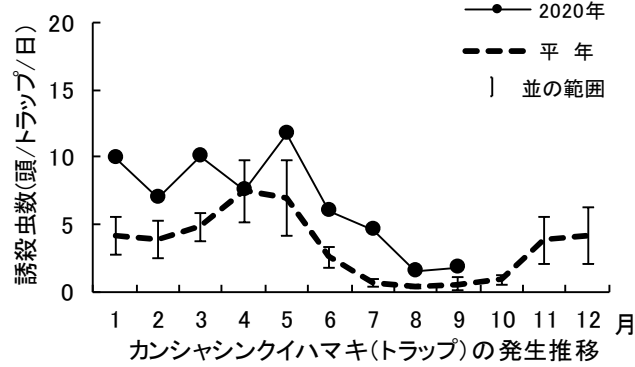
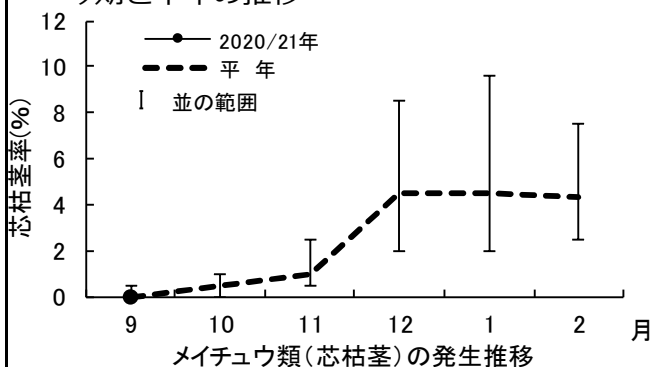
防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

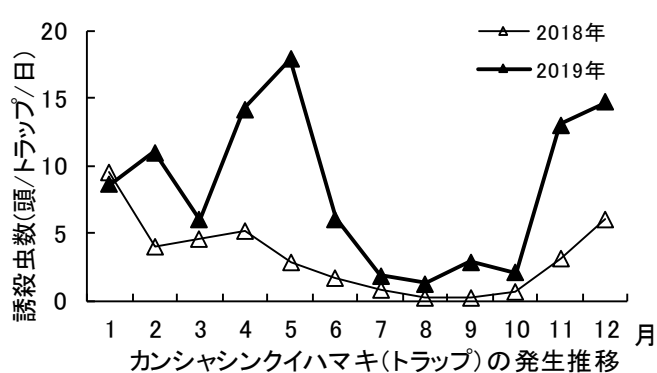
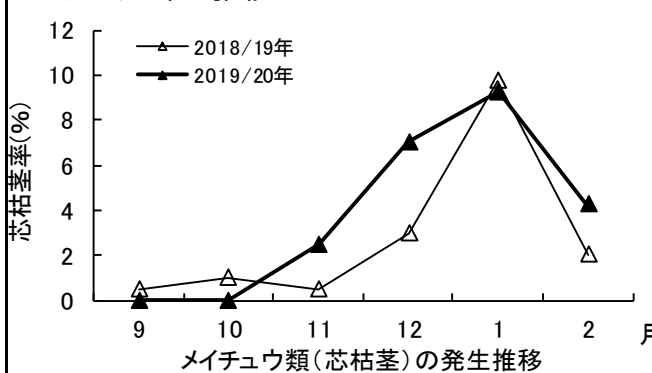
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
		10 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・ 芯枯れ発生ほ場率：20.0% (平年値：44.5%)

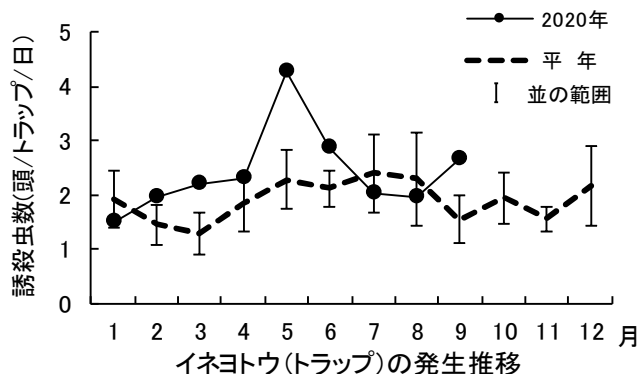
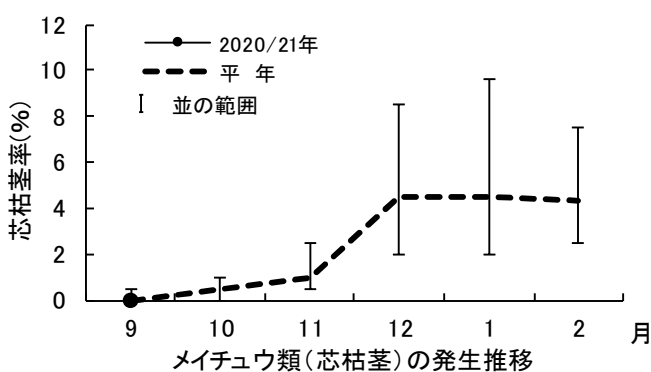
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

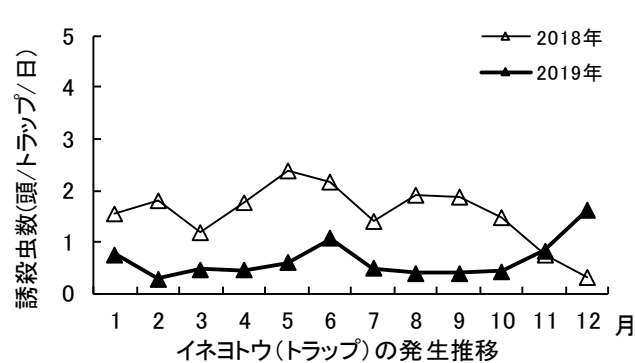
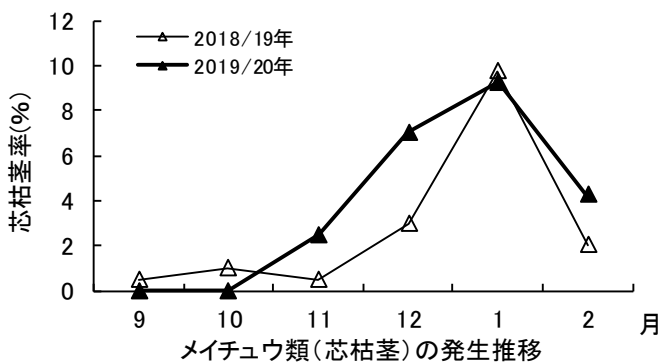
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・ 芯枯れ発生ほ場率：20.0% (平年値：44.5%)

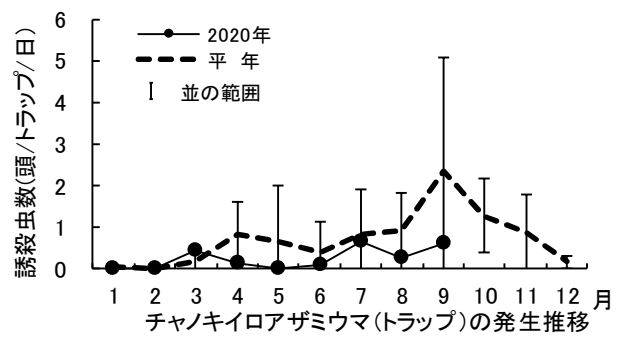
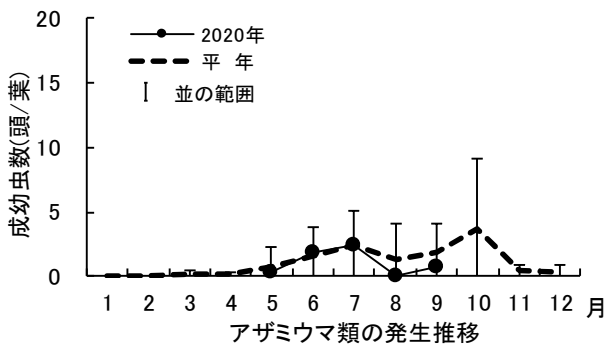
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

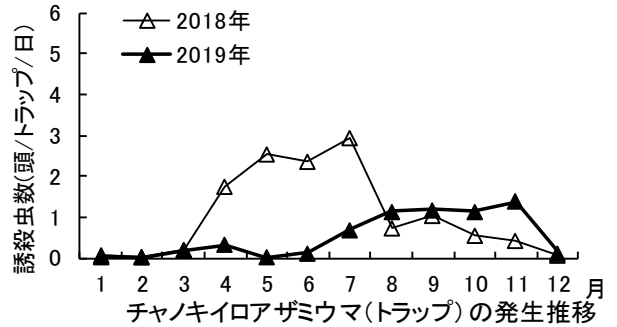
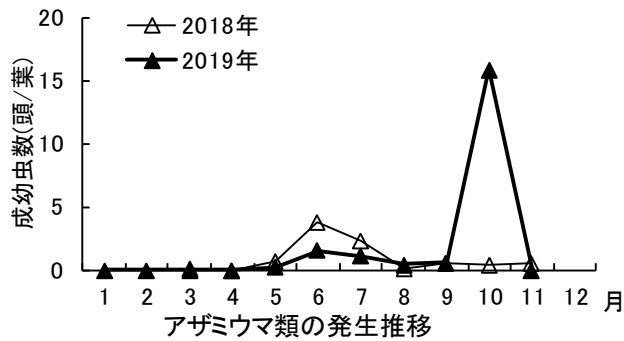
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・発生ほ場率：75% (平年値：75%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

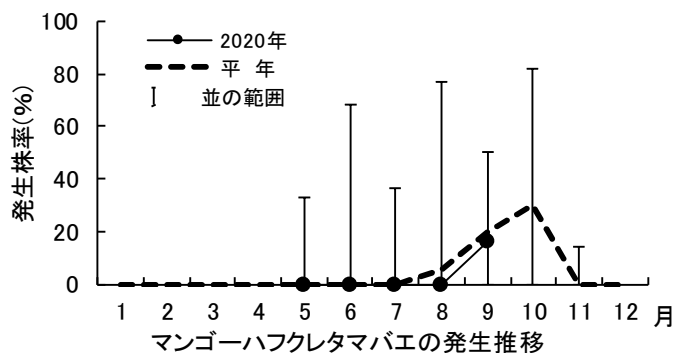


ナガエコミカンソウ

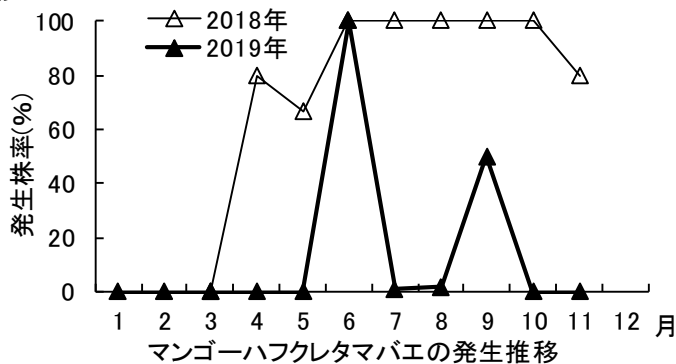
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



- ・ 被害新梢率：4.2% (平年値：40%)
- ・ 発生施設率：75% (平年値：67.4%)

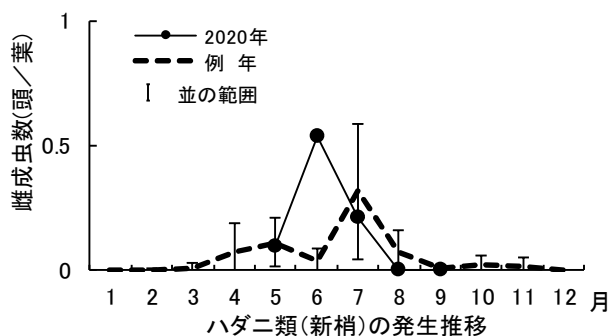
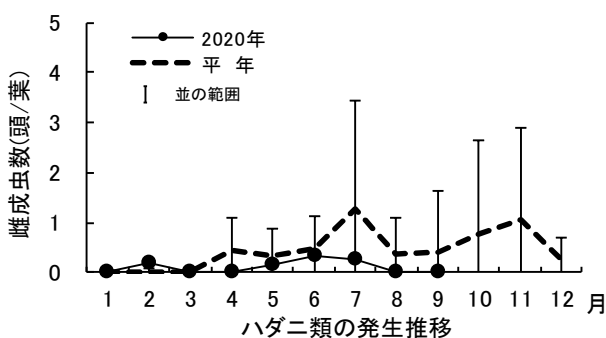
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

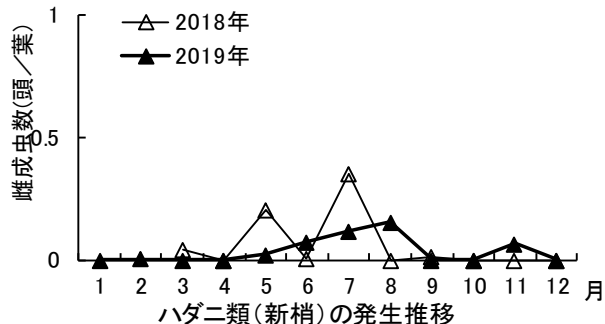
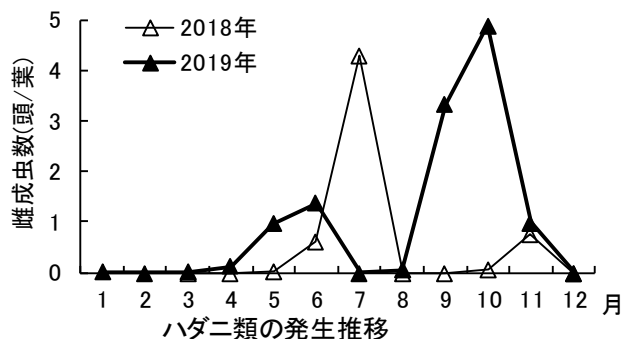
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：20% (平年値：36%)

防除のポイント

- ・ 晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

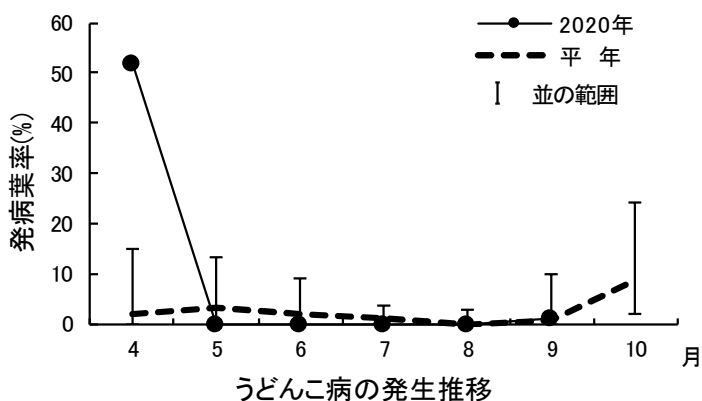


ハダニの寄生による葉のかすれ症

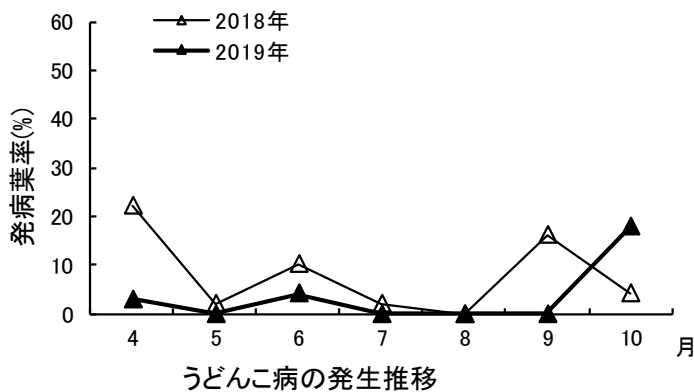
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：60% (平年値：50%)

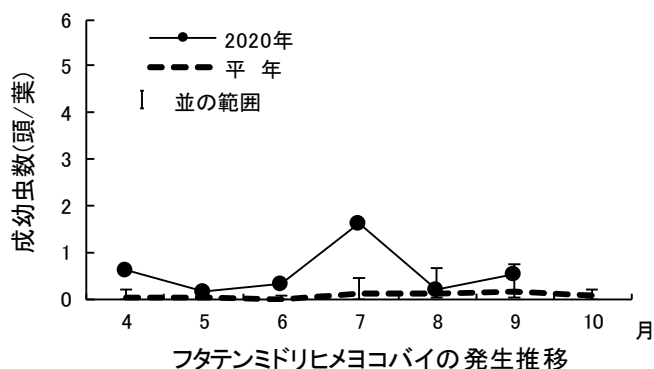
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

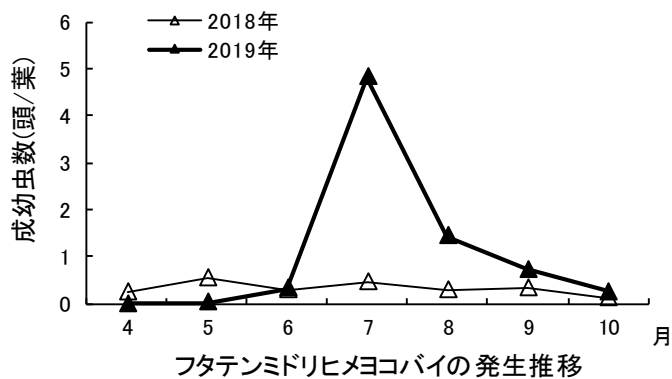
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率 : 80% (平年値 : 76.1%)

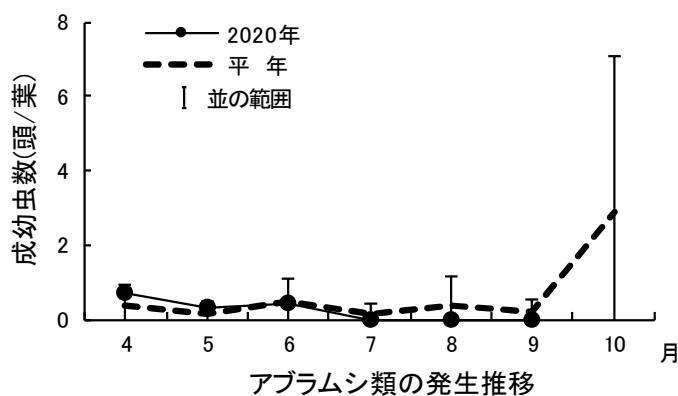
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

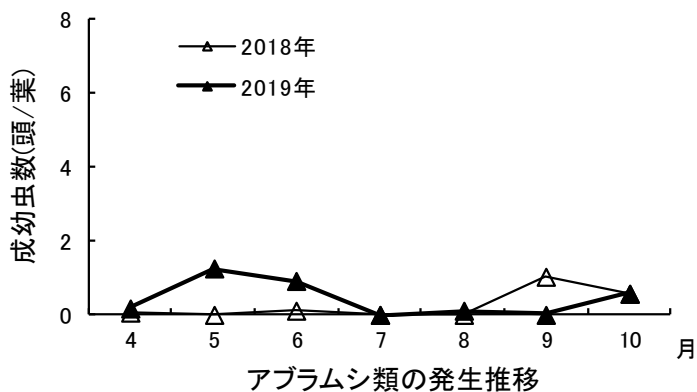
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：0% (平年値：23.9%)

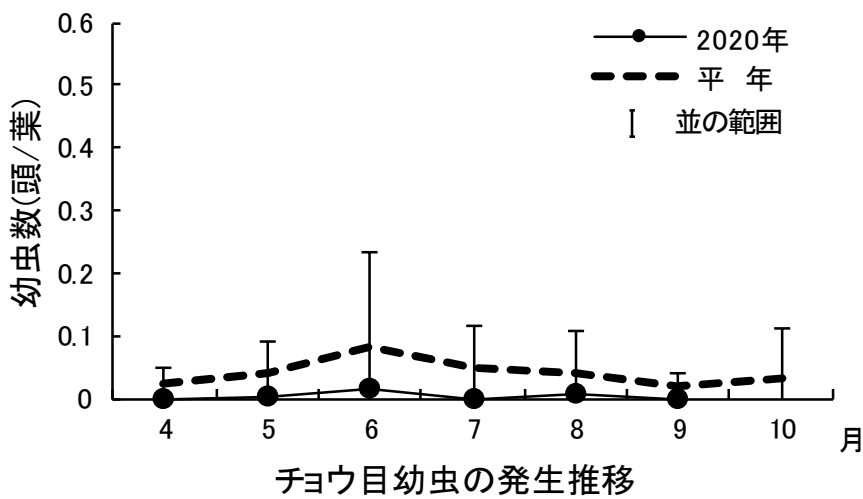
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



発生ほ場率 : 0% (平年値 : 42.1%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

